

差別の現状から学び、 あたたかいまちをつくる

人権・同和教育研究集会（シンポジウム）

講演会に続いて行われたシンポジウムでは、「あたたかい日野町、人権の種をまこう、育てよう」を研究主題に、子どもの人権（報告者＝井上幹朗さん）・高齢者の人権（報告者＝山根美奈子さん、生田公恵さん）・障害者の人権（報告者＝田子功司さん）・部落差別（報告者＝山口代子さん）の4つの人権課題についての現状と、その解決に向けての話し合いが、加持谷典範さんの進行により行われました。

シンポジウムでは、まず報告者からの現状報告が行われました。



報告者
井上 幹朗さん
（日野高等学校教諭）

子どもの人権について

報告 井上幹朗さん
「今、高校生の間では、携帯電話などによるトラブルが目立っています。インターネット上の掲示板に匿名で自分の悪口が書かれ、その犯人探しをしてけんかになったり、どんどんトラブルが大きくなっていきます。携帯電話を持つている生徒は、1年生では約8割、3年生になるとほとんどが持っています。」

学校とは関係なく作られたいわゆる『裏サイト』もまた問題です。きちんとした内容のものもありますが、他人の悪口の連続。インターネット

はとても便利な反面、とても恐ろしいもの。この現状を大人も理解する必要があると思います。」

高齢者の人権について

報告 山根美奈子さん
「私が聞き取りした高齢者の皆さんからの声をお話します。高齢になると視力の低下や足腰が弱くなったりしますが、それは普通に老いることで起きること。でも、若い人・健康な人にはそれがわかりにくく、思いやりのなさにつながっていくのだと思います。」

行きたくないのに施設に入られてしまうのはとても辛いこと。逆に施設から家庭に帰るのは難しいし、入所と同時に家族から外れてしまう人も多いといえます。家族でありつつつけることが難しいようなのです。介護の現場では、忙しさと大変さの中で言葉使いがぞん



報告者
山根美奈子さん
（人権擁護委員）

ざいになったりという現実もあるようです。そこで本当に高齢者の人権が守られてケアされているのか、厳しい状況もあると思うので、費用のからない方法や、どう支えあつていけばいいかということとを提案しあえたらと思います。」

障害者の人権について

報告 田子功司さん
「全国で聞く話ですが、知的障害・精神障害がある人の施設を地域の中にするとうすと、必ずといっていいほど近隣の人たちから何らかの反対の声が上がります。その原因には、障害者に対する理解の不足があると思います。」

障害者を怖がりたり遠ざけたりするのは、その人たちのことを良く知らないから起こる差別なのではないかと思えます。新聞などで、障害者による

犯罪などが報道されますが、統計的にはその割合は非常に少ないものです。そうした認識不足が偏見を生んでいるのではないかと思っています。」

部落差別について

報告 山口代子さん
「環境改善のための同和对策の特別措置法は期限を迎え、その役割を終えましたが、差別そのものがなくなつたわけではありません。小地域懇談会などでも『部落差別のことはもういい』と言われる人もあります。私のまちでも30年以上懇談会を続けていますが、人の心を変えていくのは環境改善のようにはいかないと感じています。」

結婚に関わる身元調査も相変わらず行われています。県外の行政書士が不正に戸籍を取得し、それを興信所へ横流しして身元調査に使われていることがわかりました。イン

ターネットを使った電子版被差別部落地名総鑑も見つかっています。被差別部落の出身かどうかを調べて確認する行為が依然として行われているのです。

法律失効からの5年間、県内で起きた差別事件は報告されただけで100件を超えます。2005年、鳥取県は全国に先駆けて人権侵害救済のための条例を制定しましたが、様々な反対もあつて大きく見直しをされるようになりました。差別から身を守ることは大変厳しい状況にあるということをお知らせを御座いません。

各方面からの報告の後、全員による討論が行われました。

加持谷 高齢者の課題の中で、「家族でありつづけることが難しい」とのことでしたが、これにはどんな背景があるのでしょうか。

山根 施設に入るまでは家族



報告者

田子 功司さん
(セルフひの所長)

であつたわけですね。その施設に入った段階で、家族なんだけど、預けっぱなしになつていると日々の生活の中でその人の存在が消えていくということですね。

でも、たまには顔を見に行きたい、孫の顔を見せたいと思つて、気持ちの中だけでも家族でありつづけることは、その人の生きる力を高めていくと思ひます。

加持谷 高齢者の問題としてどうしても気になるのは、同和問題に関わる高齢者のこと。その現状を聞かせてください。

山口 私のまちは学習のために子どもたちが同和地区の高齢者に「どんな差別を受けたいか」を聞き取りに行きます。

あるおばあさんは、「私は差別なんか感じたことがない」と言われていました。でも、よくよく話してみると、「私は差別なんか受けない。だつて私は余分なことは言わ

ないから。病院や会合に行つたつて余分なことはしゃべらんことにしている」と。私は、差別を受けないように身構えていてそれが習慣になつていく、そつやつて生きてこられたんだなと思ひました。差別は人の性格までも変えてしまつものなのかと感じました。

加持谷 障害者の人権の一番の問題は理解不足による偏見が広がつていふことだと話されましたが、その背景は。

田子 障害者が社会の中で住む環境が整えられていなくつたことが大きいと思ひます。障害者雇用というの、どうしても雇用しにくい現状があつたりして、就職になかなかつながつてきません。そういう意味で皆さんとふれあう機会が少なくなつたのではないのでしょうか。

加持谷 今回のように、人権の課題を一つ一つ点検して



報告者

山口 代子さん
(伯耆町文化センター生活相談員)

いつて、人権はいかなるものかということに接近していくのは非常にいいこと。人権というものは分けては考えられない、相互にすべてが共通する大きなものだと思ひます。

最後にまとめとして、それぞれの分野から今後どうしていったらいいのかわかかせてください。

井上 インターネットは大人が作り出したもの。非常に便利ですが、手におえないくらい無責任な欲望の世界でもあります。子どもに携帯電話を買い与えることは、そういう世界に触れるという覚悟がいふと思ひます。また、家庭などの普段の生活の中で、他人

の悪口は言わないよう、積極的な声かけをしていくことが大事だと思ひます。

生田 山根さんが話されたことを踏まえて提案したいと思ひます。まず、自分が元気なうちに、お金を出して介護施設を体験してみることによつて、自分にできることや違つて、自分が見えてくるのではないかと思ひます。介護する側が疲れないようなシステムづくりにとも知恵を絞つて行政と協力できればいいです。

また、最後まで家族でありつづけるためにも、施設に預けるだけでなく、望んでいることを聞いてあげること、大切だと痛切に感じました。

年を取ることは誰もが通る道。人の立場に立つて、自分が支えてあげられるよう、家族でなくても声をかけ合つていきましよう。

最後に、今日から実践していただきたいことを一つ提案します。お互い疲れて帰つて



報告者

生田 公恵さん
(日野町男女共同参画推進会議委員)